

いけにえ淵の毒蛇 (2)

昭和五十五年六月五日号

おあじと別々に一夜をあかした六人は、この出来事を国元へ知らせようと引き返していきました。

柏原まで来たとき、その中の一人が「おあじ一人をぎせいにして、私たちだけが国元へはもどれない。いつそ私たちも死にましよう」といい、六人は、相談して、柏原の沼へ身を投げて死んでしまいました。

一方、おあじはすでにかぐし、「わたし一人が死ねば、大勢の人が助かるのだ」と心に思いました。

そのころ前田村に保寿寺(現在上田端)というお寺があり、その芝源和尚は、徳川家康

から、「その毒蛇を退治せよ」と命令されました。そこで芝源和尚は、百人の僧をあつめて、三ツ股淵の西岸にある水神の森で、毒蛇を退治するお経をとなえました。

六月二十八日のまひるどきです。空は一点の雲もなく晴れわたっています。

保寿寺にある大蛇のうろこ



お坊さんたちのお経の声は、鏡のような水面をすべって四方にひびきます。南側の岸には、白装束のおあじが小舟にのつて、ジツと芝源和尚の合図をまっています。

お経の声はだんだんと熱をおびて、水底深く沈んでいる大蛇にも聞こえるかと思われませんでした。

とつぜん、淵の水面が波立つてきました。

そして大きなうず巻ができて、急に空が曇り、やがて大雨とともに大地もさけるかと思うような雷がとどろきました。芝源和尚は、一段と声をはりあげてお経を読みました。

三ツ股淵の水は、数十呎の高さにのぼり、人々は目をつむつて地にふせました。

まもなく淵はもとの静けさにもどつて、何事もなかつたようです。

ふと見ると芝源和尚のそばに、大蛇のうろこが五・六枚散らばっていました。

お坊さんたちの力で命が助かつたおあじは、六人の友達の後を追つて柏原まで来ましたが、

友達がみんな死んでしまったことを知りました。余りの悲しさにおあじも、同じ柏原の沼に身を投げて死んでしまいました。

吉原宿の人たちは、おあじの霊をなぐさめるため、鈴川の砂山に阿字神社をたてました。

コイがたくさん釣れた

高田さかさん(鈴川4)

ここは砂山といつて、昔は家が五・六軒しかなくて、水も下から汲んできたんだよ。

三ツ股淵は、大きな淵になつていてとても深く、コイがたくさん釣れた。

阿字神社のお祭は、毎年十月ごろ村の青年が集まつてやつたんだ。

西隣りの前田新田部落には、泳いで渡つたりしたもんだね。